

【Github】概念説明とGitとの違い

Githubとは？

GitHub

[Github](#)は、Gitを使ったソースコードのバージョン管理を、クラウド上で行うことが出来るプラットフォームです。

基本的にはクラウド上のサービスのため、個々のエンジニアがGithubのアカウントを作成し、そのアカウントの中でソースコードを管理する形になっています。

もちろん、個人だけでなく法人のアカウントも作成できるため、会社単位でソースコードを管理することも可能です。

現在では、WEBアプリケーションやスマホアプリケーション、IoTサービスなど、さまざまなソフトウェアのソースコードがGithubを使って管理されています。

Gitとの違い

GitとGithubは名前が似ていますが、その実態は全く異なります。

Gitはそもそもソースコードのバージョン管理を行うためのツールですが、GithubはそのGitをクラウド上で管理するためのWEBサービスなのです。

そのため、ソースコードのバージョン管理自体は「Git」が行い、「Github」はクラウドを使ってWEB上でソースコードとGitの共有を行う。という違いがあります。

Githubを使用する利点

Githubを使ってクラウド上でソースコードとGitを共有することによって、バージョン管理をすることの利点はいくつかあります。

バージョン管理状況が共有できる

まず、ソースコードのバージョン管理状況を常に共有できる点です。

通常、特定のPC内でのみソースコードのバージョン管理をしてしまうと、他のエンジニアがその状況を把握することは難しいですが、これをクラウド上にアップすることによって、常にその状態を共有することができます。

ソースコードが共有できる

次に複数端末間で円滑にソースコードの共有が出来る利点もあります。

ソースコードが特定のPCにのみ存在し、それを他の端末上でも開発したい場合は、ソースコードを複製してメールや外部記憶媒体などで移行する必要があります。

しかし、Githubを使ってアカウントにログインをすれば、どの端末でも同じソースコードを直ぐにダウンロードして開発することが可能となります。

円滑なチーム開発ができる

また、複数人のエンジニアが同時並行して開発を行う場合、個々のエンジニアの変更内容をタイムリーに共有することも可能です。

例えば、Aさんが開発をして発生した差分をBさんのソースコードへ取り込みたい場合、Githubを使用することでクラウド上でその差分をタイムリーに共有し、安全に取り込むことが出来るようになります。

まとめ

この様にGithubを用いることで、より効率的にチーム開発や安全なソースコードの管理を行うことが出来るなど、様々な恩恵を享受することができます。

今や、ソフトウェア開発現場においては、Github(もしくは[Bitbucket](#))を使用していないプロジェクトチームは殆ど無いと言っても過言ではありません。

そのためエンジニアを目指す場合は、Gitと共にGithubについても使いこなせることが求められるでしょう。

← [教材一覧へ戻る](#)